



2026年3月期 決算説明会

NANOホールディングス株式会社

2026年5月19日（火）

INDEX

01 2026年3月期決算概要 2027年3月期事業計画について

取締役CFO 松尾 隆

02 投資事業ストラテジー

代表取締役会長兼社長CEO 松村 淳
取締役CIO 飯野 智



01

2026年3月期決算概要
2027年3月期事業計画について

取締役CFO 松尾 隆



2026年3月期 連結損益計算書

(単位:百万円)	2025年3月期 実績(連結)	2026年3月期 見込(連結)A	2026年3月期 実績(連結)B	増減 (B-A)
売上高	108	156	174	0
売上原価、販売費及び一般管理費	863	1,216	1,140	△ 137
内:研究開発費	422	640	487	△ 139
営業損失	△ 755	△ 1,060	△ 965	137
営業外損益(ネット)	67	58	99	30
経常損失	△ 687	△ 1,002	△ 866	168
当期純損失	△ 835	△ 1,061	△ 835	159

売上高要因

化粧品材料供給およびコムレクスの販売に伴う利益分配収入

2026年3月期 連結貸借対照表

(単位:百万円)	2025年3月31日	2026年3月31日	増減
現預金、運用債券(手元流動性)	3,505	4,910	1,405
その他流動資産	115	288	173
固定資産	375	707	332
資産合計	3,996	5,906	1,910
転換社債型新株予約権付社債	540	—	△ 540
社債	—	1,600	1,600
その他負債	716	740	24
負債合計	1,257	2,340	1,083
資本金及び資本剰余金	5,713	7,338	1,625
利益剰余金	△ 2,986	△ 3,930	△ 944
その他有価証券評価差額	△ 2	130	132
新株予約権	15	27	12

2026年3月期 連結キャッシュフロー計算書

(単位:百万円)	2025年3月期 実績(連結)	2026年3月期 実績(連結)	増減
連結営業キャッシュフロー	△ 401	△ 816	△ 415
連結投資キャッシュフロー	587	2,261	1,674
連結財務キャッシュフロー	△ 568	2,222	2,790
換算差額	4	45	41
期首残高	1,575	1,197	△ 378
期末残高	1,197	4,910	3,713

<キャッシュフロー概況>

営業キャッシュフロー：当期純損失等によるもの

投資活動キャッシュフロー：定期預金の払い戻し、有価証券の償還等によるもの

財務活動キャッシュフロー：社債発行、新株予約権の行使による収入等によるもの

02

投資事業ストラテジー

代表取締役会長兼社長CEO 松村 淳
取締役CIO 飯野 智



2025年10月以降、投資事業基盤を順次構築

Phase 01

投資事業への転換開始

2025.10~2025.12

10/8 SBIとの提携を発表
12/11 投資事業へ転換
役員体制変更

商号変更
NANOホールディングス株式会社



設立
Nano Bridge Investment株式会社



Phase 02

投資実行/海外展開体制を整備

2026.1~2026.3

1/6 適格機関投資家登録
2/2 ファンド設立
2/17 米国ネットワーク強化
Nano Holdings US
Chairman Neil W. Gibson
President Rocky H. Kato
3/13 中国ネットワーク構築
(Norwich Capital 提携)

Phase 03

案件創出実装フェーズ

2026.4~

4/10 AI活用による
カーブアウト投資戦略強化
(BIRD INITIATIVE 提携)
4/24 戦略子会社の
プラットフォーム強化
(LNP技術 Luna RD買収)

Gateway to the World
**日本の技術を
世界へ**

Bringing Japanese Innovation to the World.

**グローバルで
成長させるGateway**

NANOホールディングスは、
まだ十分に価値化されていない日本発の
技術に光を当て、
グローバルでの成長へとつなげるGateway

日本の優れたテクノロジーをグローバル水準でバリューアップし、
EXITを実現する新しい投資プラットフォームです

日本企業は世界と比較して割安

01

日本企業の評価ギャップ

- 日本には世界水準の技術力を持つ企業が多数存在
- 米国・グローバル市場と比較して企業価値が低く評価される傾向
- 技術力と市場評価の間に大きなバリュエーションギャップが存在

02

海外投資家の関心の高まり

- 米国を中心とした海外投資家が「日本の割安な優良資産」を求めており日本市場に注目
- 日本企業へのM&Aや投資案件が増加

例:

- Bain Capitalによる(現)田辺ファーマの買収:約33億ドル
- Warren Buffettによる日本の総合商社への大型投資(伊藤忠、三菱商事、東京海上など)
- イーライリリーによる次世代バイオ企業の大型買収が加速

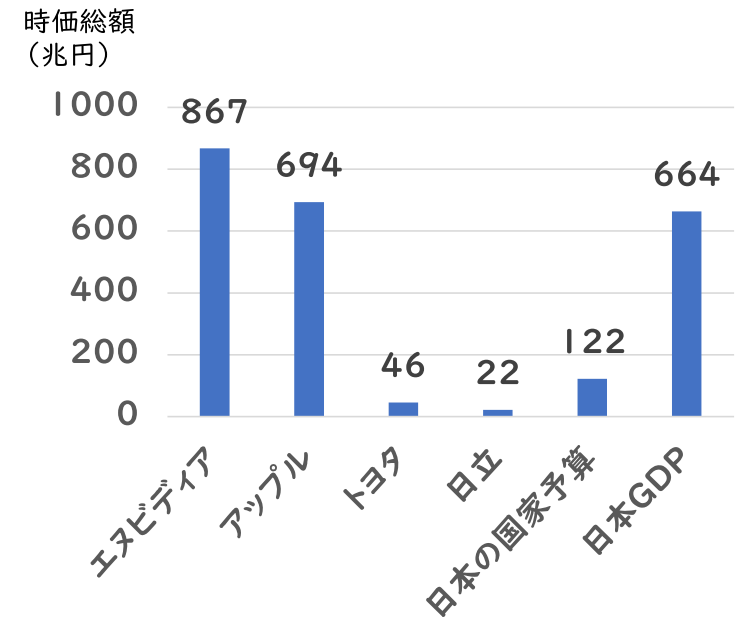
例: Ajax 約23億ドル、Kelonia 約70億ドル

03

日本のグローバル資金調達力の課題

- 多くの未上場企業・中堅企業は国際資本市場へのアクセスが限定的
- 高品質な技術や事業資産が十分な資金供給を受けられず埋もれている

時価総額における
バリュエーションギャップ



※ 各社公表時価総額をもとに概算(参考値) 2026年5月13日時点
※ 1ドル=158円で換算

グローバル評価・海外投資家を呼び込むUSチーム



Neil Gibson, Ph.D.

がん治療領域で4つのブロックバスター治療薬を創製したレジェンド

30年以上にわたりがん治療領域を中心に医薬品の研究開発を牽引してきたヘルスケア業界のレジェンドです。テモゾロミド、ソラフェニブ、エルロチニブ、クリゾチニブを含む4つのブロックバスターの研究・開発・商業化に貢献し、ファイザー等、複数の企業でCEO/CSO等を歴任しました。直近では、4社のベンチャーを起業、アンメットニーズに応える医薬品の研究開発を推進。資金調達、M&A/IPO、戦略的成長イニシアチブに豊富な経験を持ち、投資家にとって信頼できるパートナーです。

創業評価 技術評価 グローバル



Michael Houston, Ph.D.

創薬とCDMO領域で卓越した成果を牽引するバイオテクノロジーの革新者

ペプチド、タンパク質、siRNA、mRNAなど最先端モダリティの創薬で卓越した実績を誇る科学者。革新的APIやデリバリーフォーミュレーションを、コンセプト設計から研究、臨床開発まで一貫して主導。Trilink Biotechnologiesでのリーダー職を経て、Artis Biosolutionsを創業しCSOとして事業を牽引。多様な専門家チームを構築・統率し、治療薬開発と製造の未来を切り拓く科学的リーダーです

開発実装 CDMO 製造

日本成長戦略：創薬力の強化

世界の医薬品市場 約 **200兆円** (2022年) ファースト・ベストインクラス特許品 年平均 **9.6%** 拡大

政府の戦略（創薬・先端医療分野）

① ファーストインクラス・ベストインクラス製品

新たな創薬シーズ～実用化まで一気通貫

② バイオ医薬品・再生医療等製品

iPS細胞・抗体薬物複合体の技術基盤を活用

③ 感染症対応製品

ワクチン・抗菌薬等の安定供給体制を整備

④ 革新的デバイス・先端医療

AI・ロボティクス活用の先端医療技術開発



医薬品産業強化総合戦略

厚生労働省

日本の優れた創薬技術の世界直行型開発を支援。
魅力ある研究開発・規制・事業環境の整備により、日本発の創薬産業拠点の創出を加速



創薬ベンチャーエコシステム強化事業

AMED

認定VCのハンズオン支援を要件に補助金を提供。
非臨床～臨床段階の創薬ベンチャーを支援し、海外市場での事業化を積極支援



創薬力向上関連資料

内閣官房

国内外から人材・資金・シーズを呼び込む方向性。
日本を世界に肩を並べる『創薬の地』とし、グローバル資本を呼び込む

NANOグループは、日本の優れた技術をグローバル視点で評価し、
政府の成長戦略の追い風に乗った補助金と海外VCとの共同投資を通じて、
日本の技術・事業資産をグローバル成長へ接続するハブ機能を担う

投資事業の進捗 (2026年5月15日現在)

ディールソーシング、DD進行中案件、投資実行の状況

案件 (社数)

Contact: 82

(内訳)

ベンチャー 40

製薬会社 22

カーブアウト 20

NDA: 30



米国VCとの連携構築
9社

投資子会社

Nano Bridge Investment株式会社



日本の優れた技術を持つ
企業の価値を世界へつなぐ

日本のバイオ・ヘルスケア企業の潜在価値を見出し、投資を通じて世界に羽ばたく企業への成長を後押しします。

2026年2月 ファンド設立 Bio Bridge I

戦略子会社

NANO MRNA株式会社



世界最先端の
創薬プラットフォーム

様々なモダリティの課題を解決する新たなプラットフォーム企業です。

2026年4月 Luna RDを子会社化、LNP技術の取り込み

投資対象

01

日本の未公開企業

日本には世界水準の技術力を持つ企業が多数存在

米国・グローバル市場と比較して企業価値が低く評価される傾向

技術力と市場評価の間に大きなバリュエーションギャップが存在

02

製薬パイプライン

製薬企業の研究開発戦略見直しにより有望パイプラインの外部化が進展

中堅製薬企業は国内開発能力はあるが、グローバル治験資金が不足



VCや海外バイオ投資家との提携ニーズが拡大

03

上場バイオベンチャー

市場環境の影響で企業価値が過小評価されている上場企業

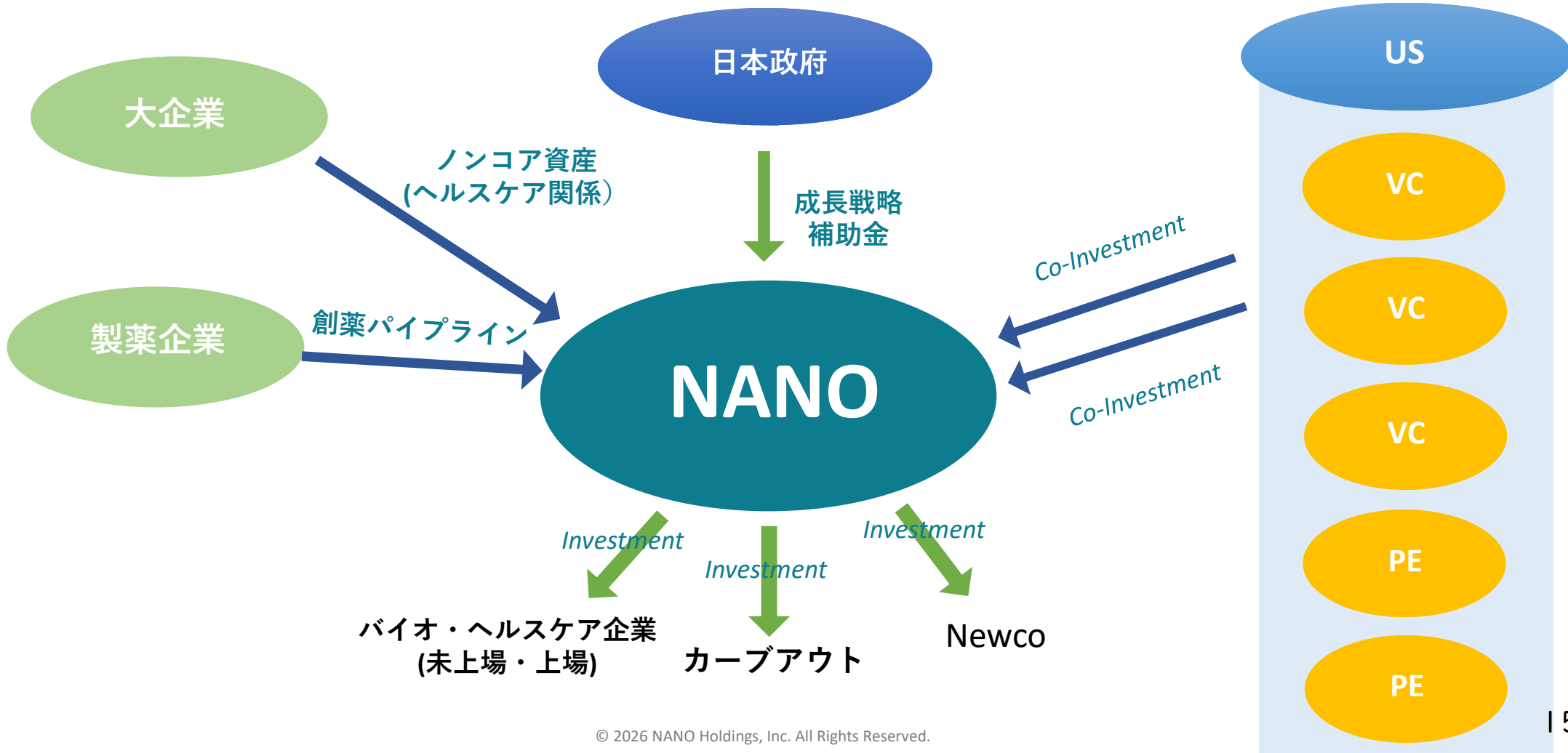
PIPE投資などを通じた企業価値向上

04

企業の事業アセット

大企業が保有する事業
・技術のグローバル展開
・カーブアウト支援

NANO: 日本の技術をグローバルで成長させるGateway



日本の優れた技術をグローバル成長へ接続するGatewayモデル



案件創出・事業アセット発掘

日本

SBIグループとの協業

- 国内上場・未公開企業の案件創出
- Nano Bridge Investmentとの共同ファンドによる投資実行支援

経験豊富なメンバーが持つ 国内製薬・大企業ネットワーク

- カーブアウト案件
- ノンコア資産発掘

政府の成長戦略との連携

- AMED等の補助金獲得
- 適格機関投資家としてファンド運営
- 海外VCとの共同投資

中国

ライセンス・治験・事業展開

Norwich Capital との協業

- 中国企業とのライセンスOut/ライセンスIn
- 中国治験への展開を加速
- EXIT機会創出

米国

VC・IPO・M&A・海外資金調達

Nano Holdings US

米国VC・投資家ネットワーク

- 米国VCへのアクセスによる海外資金の獲得
- EXIT機会創出

USバイオ・製薬ネットワーク

- Global Pharmaへのアクセス
- グローバル技術評価
- グローバル事業開発設計



Gateway

日本の優れた技術・事業資産を
グローバル資本・事業開発・
EXITへ接続し
企業価値向上を実現

2027年3月期の主要カタリスト

01 有望な企業への投資を通じて、将来の収益基盤を拡充

02 製薬企業・大企業との事業アライアンス

03 US VCとのアライアンス

04 投資実行・事業進捗・戦略方針に関する透明性および速やかな情報開示を通じ、投資家との信頼関係構築および企業価値向上を推進

ありがとうございました

NANO
HOLDINGS

本資料には、当社の事業及び展望に関する将来見通しが含まれておりますが、現時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、様々な要因の変化により実際の業績は記述している予想とは大きく異なる結果となる可能性があることを御承知おき下さい。

NANOホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション部 03-6432-0020